

令和5年9月30日

# 南の風 490

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

本号では「信頼」の前提条件の要素となる、「返事や挨拶」を取り上げます。

初対面での返事や挨拶は、その人の第一印象を決めます。第一印象は信頼度を増減する最初の取引のようなものです。多くのコーチが返事や挨拶を徹底するのはここに理由があります。

初対面でも信頼度は必ずプラスかマイナスに動きます。でも初対面ではお互いのことがほとんど分かりませんから、このときの増減の基準は「しっかりしている」とか「だらしなさそう」といった単純なことになります。だから返事と挨拶が大事なのです。

そしてこの第一印象でプラスになるか、マイナスになるかは、その後の信頼の増減にも大きな影響を及ぼすことになります。たとえば最初にマイナスに動いてしまうと、次にマイナス要素があったときに加速度的にマイナスに変動します。加速度的にですから実際にはちょっとしたマイナス要素だったとしても、それ以上に悪化してしまうのです。逆に第一印象でプラスに動いたときは、その後にマイナス要素があったとしてもゼロ以下にはなりにくいという傾向があります。色眼鏡で人を見るのは不公平なのは確かですが、人間の信頼関係にお互いの第一印象が影響するのはある程度仕方のないことです。

ここで『返事』と『挨拶』の語源と意味について書きます。

返事は、呼びかけに対して答える言葉であり、「拜」が語源です。拜には、「ていねいに敬礼する」、「ありがたく受ける」という意味があり、感謝して受け取る気持ちの現れになります。

一方挨拶は、禅宗の「一挨一拶」（いちあいいちさつ）から来ていると言われます。「一つ押して一つ迫る」、「心を開いて接する」という意味になります。人と人とを結びつける基本のものであり、お互いの心を開く働きがあるのです。

返事や挨拶はスポーツの能力と直接関係はありません。返事をしたからプレーがうまくなるということはありませんし、返事をしなくても高いハンドリングスキルを身に付けることは可能です。挨拶も同じです。ですが人として優れた選手になるためには、やはり返事や挨拶といった社会性が重要になるのです。

それはコーチが第一印象で好感触を持った選手には、無意識のうちにその後も好感触を持ち続けるという傾向と関係があるからなのです。最初に好感触を持った選手がちょっとした失敗をしたとしても、コーチはすぐに挽回のチャンスを与えます。しかし最初に印象が悪かった選手は最初のチャンスをもらうまでに高いハードルがあります。またせっかくチャンスをもらったとしても、そこでちょっとした失敗をすれば「やはりダメだ」というレッテルを貼られてしまうこともあるでしょう。

チャンスをたくさんもらった人は多くの経験を得られます。その経験を糧にしてさらに良い選手へと成長するのは必然なのです。

また第一印象で好感を持ってもらえるような選手は周囲からも応援をしてもらえます。スポーツ選手として成功するということは、社会的なことなのです。**社会性無くしてスポーツ選手としても指導者としても大きな成功を収めることはできない**と思います。